

小樽ロータリー

クラブ会報

19 No.4030
創立1933.12.12

2016～2017年度 RI会長 ジョン F. ジャーム (John Germ)

例会場：グランドパーク小樽
例会日：毎週火曜日12時30分
事務所：小樽市築港11番3号
http://www.otaru-rotary.net/
発行日：2016年11月15日

2016-17年度 国際ロータリーテーマ



人類に
奉仕する
ロータリー



今日のプログラム

「スイーツ王国北海道をめざして」

(株)きのとや 代表取締役会長 長沼 昭夫様

第18例会記録 2016年11月8日

■ロータリーソング 「それでこそロータリー」

■ゲスト紹介

北海道空港㈱ 取締役副会長 山本 邦彦様
〃 総務部秘書広報課主任 白川 拓也様

■会長報告（泉会長）

- ・先般の理事会でクラブ細則第1条第1節の規定に基づき次年度の理事・役員を指名する指名委員会を設置し、かつ当該指名委員会は現理事会をもって指名委員会とする旨決定しました。
- ・11月6日(日)、札幌第一ホテルで開催された米山学友会(北海道)に参加、国立ガバナーエレクト、米山記念奨学会理事塚原バスターガバナーの来賓挨拶の後、菅原学友委員長長の乾杯で懇親会が始まり、同じテーブルの米山学友や奨学生と楽しく歓談してきました。

■幹事報告（上参郷幹事）

- ・地区より国際奉仕事業の決定のお知らせが届いています。国際奉仕委員会の事業費として支出します。
- ・11月29日(火)は、定款第6条(C)項により休会です。

■その他報告（渋谷会員）

父の葬儀の際にクラブ会員の皆様には沢山ご参列頂きありがとうございました。加えて多くのご香料、ご供花等を頂きまして重ね重ね感謝します。葬儀も滞りなく終了し現在に至っています。本当にありがとうございました。

■真心箱報告

- ・三山会員…イタリア旅行してきました。
- ・吉村会員…歴代会計担当者の会、帳尻会の会長に就任しました。
- ・末永会員…本日午後、皇居で兄が瑞宝重光章を受勲します。
- ・平松会員…昨年度の活動報告書が出来上がり、全て終了しました。理事・役員の皆様を始め、会員皆様に改めて感謝申し上げます。
- ・星野会員…山本邦彦様をお招きして。
- ・渋谷会員…父の葬儀の際のお礼として。
- ・上参郷幹事…11月2日(水)に大変な忘れ物をしました。渋谷会員、申し訳ございませんでした。
- ・杉江会員、山田会員、荒木会員…誕生祝として。

出欠調べ

(11月8日分)

1. 本日の欠席者 (17名)

伊藤 保夫、金久保兵士郎、工藤 和繁、小松田哲弘、佐藤 正嗣、澤田 忠宏、柴田 憲彦、嶋田 秀人、瀧村 公宏、谷内 馨一、中野 豊、野口 禮二、橋本 斉、花和 嘉貴、堀岡 秀之、松本 京子、山口真三子

2. 本日の出席者 (会員76名中58名)

(出席規定除外者9名中8名出席)

3. 前々回(10月25日)の確定出席率(会員数77人)

(病欠者を除く出席会員75名 出席67名 89.33%)

4. 前々回のメーキャップ

久末 智章、松永 吉弘、西條 文雪 (以上樽南)

前回のプログラム

「新千歳空港ターミナルの概要～国内、道外インバウンドの動向も併せて～」

北海道空港株式会社 取締役副会長 山本 邦彦様

【航空史】

ライト兄弟が人類初の動力飛行に成功したのが今から113年前の1903年の話であり、それほど昔の話ではないような気がします。皮肉なことにこの1世紀の間に2つの世界大戦を経て航空技術が飛躍的に進歩しました。



【千歳空港の沿革】

- ・1951年の開港当時は、滑走路が1本で、自衛隊機と民間機の共用空港でした。当時、羽田―千歳は、1日1往復で乗客名簿が新聞に掲載されていた時代でした。現在の新千歳空港の開港は1988年です。この時A滑走路が整備され、民間機と自衛隊機のエリアが初めて区分されました。
- ・1989年、大韓航空が初の海外エアラインとして千歳に乗り入れを開始しました。当時ANAとJASがソウル金浦空港に就航した見返りとして千歳・長崎の2つの空港に乗り入れを開始しました。これが国際線の始まりです。
- ・現在のターミナルビルは、1992年の供用開始です。2010年に国際線ターミナルビルが開業し、翌年国内線ターミナルビルをリニューアルオープンしました。

【ネットワークの状況】

- ・就航エアラインは9社(うちLCCが4社)。LCC参入が国内線の旅客数を飛躍的に増加させました。その効果の高さを実感しています。
- ・国際線は、現在、定期便だけで14路線、21社のエアラインが乗り入れています。ソウルだけでも5社が就航し、東南アジアはタイ、マレーシア、シンガポールを中心にたくさんのお客様に北海道にお越し頂いていますが、今年10月1日に就航したシンガポール航空の子会社、スクート(LCC)が今後、多くのお客様をシンガポールから送客して頂けると期待しています。将来的にはヨーロッパ線のほか、インドネシア、ベトナム、フィリピン、インド線なども誘致していかなければならないと考えています。

【旅客数】

- ・国内線は昨年が最高で1,834万人まできました。東日本大震災の2011年に旅客数が落ち込みましたが、以降4年間は増加傾向にあります。先述のLCC効果が非常に大きいのではと考えています。
- ・羽田線に関しては、2006年から3年間で1,000万人を超えています。単一路線で1,000万人を超えたのは世界初と言われています。世界で最も乗客数が多い路線の第1位が、羽田―千歳、第2位が羽田―福岡と聞いて

います。残念ながらここ数年は、羽田―千歳線の乗客数が1,000万人に届いていませんが、1,000万人を超えられれば国内線旅客数が2,000万人を突破できると期待しています。

- ・国際線は昨年200万人を超えました。今までは、台湾、韓国、中国の順でしたが、昨年は、中国が韓国を抜きました。北海道民のパスポート所持率は、47都道府県の中36位と非常に低く、海外エアライン持続のためには、アウトバウンドが課題となっています。

【国内・道外インバウンド】

- ・昨年に初めて出国日本人数を上回りました。訪日外客数は1,974万人でしたが、今年は10月末で2,000万人を超えましたので最終的には2,300～2,500万人規模の訪日外客が見込めると言われています。政府は、東京五輪の2020年までに4,000万人、さらにその10年後には6,000万人という高い目標を掲げています。ビザ発給の緩和や円安傾向が追い風となっています。
- ・世界各国の外国人訪問者数はフランスがトップで、日本は第16位です。観光大国フランスも現在、世界同時多発テロ等の影響を受けていると報道されています。観光産業は、経済、テロ、災害等の影響を受けやすいとされますが、日本政府は、2020年までには、訪日外客数を4,000万人、2030年までには6,000万人の目標を立てて施策を講じています。政府が観光立国宣言をしたのが2003年小泉内閣の時代に遡ります。地域経済活性化の中心は、それまではモノづくりであり、観光ではありませんでした。その後2008年には観光庁が設置されました。
- ・北海道のインバウンド数も昨年は208万人と伸びています。高橋知事は、2020年までには500万人に、という高い目標を掲げています。これだけ急速に伸びた要因は、HTVが台湾向けに発信している情報番組Love Hokkaido や中国と韓国で人気が出た北海道舞台の映画の影響が大きいと考えています。

【新千歳空港の今後】

- ・中国、ロシア線の乗り入れ制限がありましたが、10月から制限が緩和され、さらに中国、ロシアからのお客様が期待できると考えています(以下、画面を見ながら新千歳空港施設のPR)。
- ・現在、空港民営化問題がクローズアップされています。滑走路は国、ターミナルビルは民間会社が管理していますが、これらを一体運営しようとしています。かつ、北海道には13の空港がありますが(うち国管理4、道管理1、市管理2)、これら7の空港を2020年までに一体で運営するという政府方針があります。
- ・当社にも50数年間のターミナルビル経営のノウハウがありますので新しい運営主体として一翼を担いたいと思っています。

■次回のプログラム 「ポリオ根絶への道」 ローターリー財団委員会 津田哲哉委員

■本日の記事担当 (大崎 誓也)